

はばたけ!

帯広市立大空中学校だより

星と森の大空へ

No.7 令和元年 6月14日発行

～ 学校教育目標 ～

北の文化を拓く

「明るく健康な心身と個性

豊かな英知を育む」

第46回体育祭からまなぶこと

校長 黒島 俊一

『私たち生徒一同は、日頃の練習の成果を十分に発揮し、支えてくれた親に感謝し、仲間と協力して、正々堂々と戦うことを誓います』 生徒代表3年生の後藤君と奥村さんによる、思いあふれる力強い選手宣誓で始まった今年度の体育祭。

メインテーマ「戮力協心(りくりよきょうしん)」サブテーマ「彩れ(いろどれ) 青春の1ページ」。多くの皆様にご覧いただいたとおり、本校の子どもたちは、好天のもと、今年もすばらしい姿を見せてくれました。

真剣な顔と笑顔、一人ひとりの力の発揮と仲間の力の結集。一生懸命で、生き生きとしていて、クラスがまとまりながら、たくさんの笑顔がこぼれ、本当に楽しそうに、まさに子どもたちが輝いていたように思います。『力を出し切ったときに、また新たな力が生まれる』子どもたちの飛躍のときでもあったに違いありません。

「体育祭っていいな。」「みんなで力を合わせるっていいな。」「あんまり好きでなかった運動会が少し好きになった。」子どもたちの感想文からも、そんな声が聞こえてきます。

「最後までがんばりぬく心」と「仲間との絆」 すばらしい体育祭を創り上げてくれた子どもたちに、3つの拍手を贈ります。

1つ目は、力いっぱいあきらめずに最後まで行っていた子どもが多かったこと。80メートル走や様々な団体競技、また応援合戦も含め、最後まで頑張っている姿がうれしい！ 練習してきたこと、知恵を絞って考えてきたことを活かそうと、個人学級が努力していた姿は胸を熱くしてくれました。

2つ目は、協力したり、心を一つに合わせたり、応援したりして友達と仲良くしている子が多かったこと。勝った時の喜び、負けた時もたたえ合う姿、また大きな声で応援は競技に参加している子の大きな励みにもなったことでしょう。大空の子どもたちのまとまりと絆の深さは、小学校からのつながりからもあり、他に誇れるよさの一つです。

3つ目は、自分の役割や責任を果たそうとしていたこと。学級の係、運営の係、生徒会活動の担当として、それぞれが組織的に動いていました。また縦割り、部活動単位の動きも、本校ならではのいいつながりを見せてくれました。

お忙しい中、ご来場いただきました保護者の皆様方、子どもたちの姿はいかがだったでしょうか。お楽しみいただけましたでしょうか。行き届かない面もあったと思われませんが、ご理解、ご支援とご協力に感謝いたします。

力が入った応援合戦から



体育祭テーマアーチ



玄関前ロータリー 4組の子たちが大空の文字をかたどって植えてくれました



教育活動の充実期に入ります。集中して学習に向かい、 学び合いのある授業が展開されています。

- | | |
|----------------|---------------|
| ○ 前期中間テスト | 6月19日(水) |
| ○ 市内合同陸上大会(4組) | 6月27日(木) |
| ○ 市内中体連夏季大会 | 6月29日、30日(土日) |

体育祭のあとは、6月末の中体連大会。多くの3年生にとっては、3年間の部活動の総決算となる終盤段階を迎えています。毎日の練習に顔を出すと、どの競技でも、汗を流し、いい顔で練習に取り組む子どもたちの姿が眩しいです。

さて、忘れてはいけないのが、その前の6月19日(水)の今年度初めての中間テスト。中学1年生にとっては、多くの教科で、広範囲のテストの経験は初めてのことだと思います。年間4回の定期(中間・期末)テストに加え、学力テスト(1, 2年生3回、3年生5回)も、「15の春」の進路選択判断につながる重要なものです。1回1回のテストそのものはもちろん大切ですが、ポイントになるのは学習意欲と家庭学習です。集中度高く、教科担任の指示はもちろん、級友の発表や発言に対してもタイミングよく、温かく反応しながら、真剣に学習に向かうぞ! やるぞ! という気持ちが大切です。教科担任は興味関心を高め、わかる授業づくりに向けて様々な工夫に努めていますが、学習内容の厚みは、教科書の厚みにも比例し、学校の学習だけでは確実な定着まで行きつくことは難しいところがあります。そのため予習・復習・家庭学習の取組が一層大切になります。お子さんの家庭での学びの様子など、ぜひ、いつも以上に気にかけてほしいと思います。



職員室前表示から。
緊張感がでてきます



大空小・中新屋内運動場も 義務教育学校化 準備協が初会合

2022年度から大空小と大空中を統合し、小中9年間の教育を一つの校舎で行う施設一体型の「義務教育学校」の開校に向け、地域で議論する「大空地区義務教育学校準備協議会」の1回目の会合が5日、同中で開かれた。写真。

令和元年六月七日付
北海道新聞より

同協議会はPTA役員や大空町連合自治会など約20人で構成する。会長は大空中の黒島俊一校長、副会長は大空小の川上裕明校長を選出した。市教委は校名の選定方法や校舎の増築・改修などを説明。校名は地域住民などを対象に8月末まで募集を行い、10月にも選定するとした。新たな学校が使用する大空中の校舎については、エレベーターの設置や普通教室などを増やすほか、1階に図書室兼多目的スペースを、2、3階には屋内運動場を設ける計画を示した。

今後は21年度まで協議を重ね、来年度に校歌や校章を定める予定。次回の協議会は7月上旬に行う。この日の質疑では「制服やジャージの選定期を早められないか」という意見などが出ている。

大空地区での生徒数減少に伴い、市教委は地域の議論を踏まえて今年、2校を施設一体型の義務教育学校とする方針を示した。

(鰐淵小白合)

大空地区

義務教育学校準備協議会

6月5日(水)19時より、大空地区義務教育学校準備協議会が開催され、市教委部長以下幹部職員8名と、小中学校PTA三役、学校評議員、大空・南の森各連合町内会、保育所保護者会、それぞれの代表の方、大空小中校長教頭も含め総計18名で行われました。

初回の会議では、これまでの帯広市の適正規模の確保等に関する基本方針の概要やそれに基づいた対象校選定の考え方など、総括的な計画説明の後、大空中学校の小規模化の影響の緩和、適正規模の確保に向けて大空小学校と大空中学校を統合し、施設一体型の義務教育学校を開校することの確認と開校に向けたスケジュール、取組内容の確認がされました。

今年度の取組の大きなものとしては、アンケート等による校名の選定、通学路等の危険箇所の確認、校歌・校章の選定方法の協議などがあげられます。

加えて、制服やジャージの在り方、選定なども話題にしていく必要もでてきます。ソフト、ハード両面両方の環境整備に向けて、具体的な協議や動きが本格化してきます。今後ともご理解とご協力をお願いします。

食育アンケートのお願い

文部科学省の指定事業として、北海道から十勝の小中学校2校(栄小学校・大空中学校)がモデル校選定されて展開する「つながる食育推進事業」のアンケートを、過日封筒入りでお願いしました。ご協力ありがとうございます。(これからの提出もOKです)

このアンケートは、子どもたちが食に関する正しい知識と望ましい食習慣を身に付けることができるよう、学校における食育の推進と家庭における実践に向けた実践モデルを構築する本事業の基礎資料となるものです。

年度末には事業終了のアンケートも改めてお願いする予定です。

